

令和5年産

大豆施肥・防除設計書 資材申込書



JA東びわこ

大豆資材の見直しについて

本年度の大豆資材の見直しについては、は種後から発芽までの雑草処理に対応するため、大豆が出芽したあとも全面散布可能な除草剤パワーカイザー液剤の採用を行いました。

また、本田病害虫薬剤についても、MR.ジョーカーEW剤の大豆登録変更に伴うハスモンヨトウ・カメムシ防除対策として新たに2剤の採用を行い、殺菌・殺虫ダブルの効果があるアミスタートレボンと、殺虫剤に効果のあるトレボンエアの採用を行いました。

新たな除草剤の採用

パワーカイザー液剤



パワーカイザー液剤の特徴

大豆出芽直前～3葉期まで使用可能!!

大豆が出芽したあとも全面散布可能で、主に雑草に直接かかることで効果が発生します。また、イヌハウズキやヒユ科、イヌタデなどの一年生広葉雑草や一年生イネ科雑草の発生始期から2葉期までの処理で高い除草効果を示します。



本田防除剤の見直し

トレボンエア



MR.ジョーカーEW剤の大豆登録変更に伴い、新たに2剤の採用を行いました。

トレボンエアの特徴

カメムシ類・ツメクサガ・ハスモンヨトウ・マメシクイガなどの害虫に幅広い効果が期待できます。

アミスタートレボンSE



アミスタートレボンの特徴

殺菌・殺虫剤にダブルの効果が期待でき、紫斑病・カメムシ類・マメシクイガに高い効果を示します。

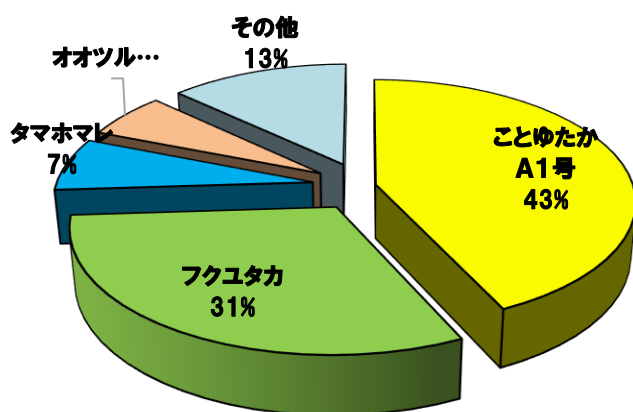


需要に応じた大豆栽培について

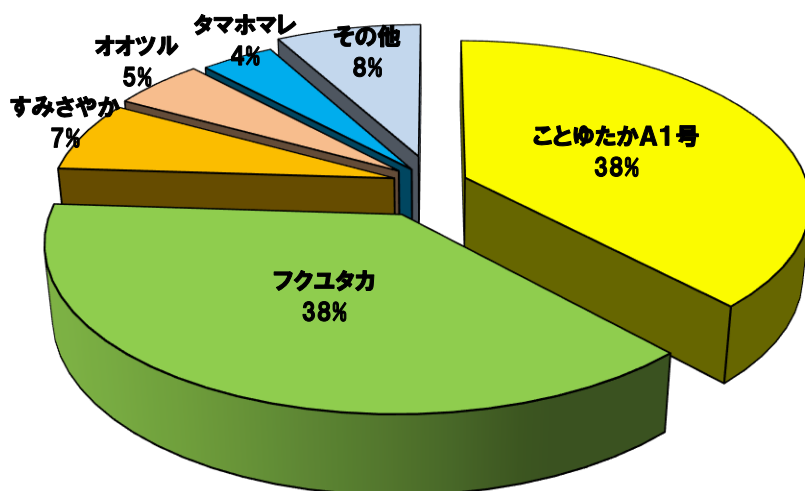
管内の令和4年産大豆の作付面積は約928haとなっており、ことゆたかA1号・フクユタカの作付けが全体面積の7割を占める状況となっています。

また、当JAでは需要に応じた生産につなげるため、次のような品種構成を目指しています。生産者の皆様の作付け協力をよろしくお願いを致します。

令和4年産の品種ごとの作付割合



令和5年産 東びわこが求める作付け品種割合



各品種の主な使用用途

ことゆたかA1号

おもに、豆腐や湯葉の原料としての利用が多く、実需者からは安定供給が求められています。

フクユタカ

おもに、豆腐や豆乳の原料としての利用が多く、近年の健康志向ブームから豆乳メーカーからの需要が強く安定供給が求められています。

オオツル

おもに、煮豆用や湯葉の原料としての利用が多く、裂皮や病害虫(紫斑病・カメムシ被害)の無い大豆が強く求められています。

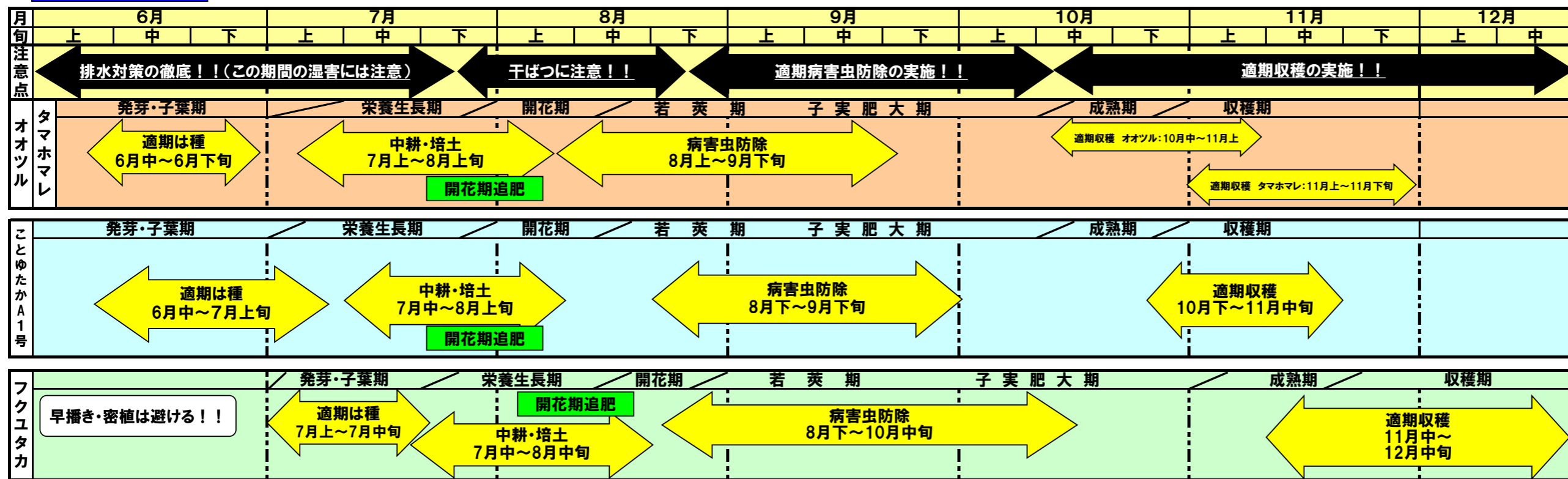


大豆の価格動向

国産大豆は、平成30年から令和2年産にかけて、全国的な不作が続いた影響から需要に対し供給不足の状態が続き販売価格も上昇しました。特に令和2年産大豆の販売価格は近年では一番高値で販売を完了しました。

令和3年産は、全国的に豊作傾向であったが、不安定な世界情勢から輸入大豆への不安が広がり当初価格は高値で推移したものの、徐々に落ち着きを取り戻しました。

しかし、依然、国産大豆への関心は高く安定した供給が強く求められています。生産者の皆さまには引き続き安定生産に向けたご協力をお願いします。

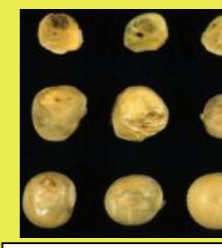


◎注意が必要な病害虫

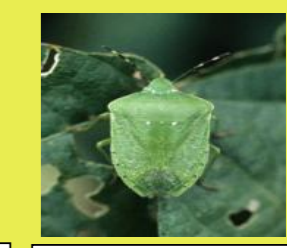


フタスジヒメハムシ

フタスジヒメハムシ被害粒



カメムシ類による被害



アオクサカメムシ



紫斑病

・排水対策と土づくり

- ①適地を選ぶ
 - 排水性・通気性が良好で、有機物を含んで保肥力に富んだ土壌を好みます。(pH6.0~6.5)(地下水位40~50cm)
- ②排水対策の徹底
 - 降雨後、ほ場に水がたまらないように排水溝をつけましょう。麦跡ほ場の場合は排水溝を再点検し雨水が速やかに排水路へ流れているか確認しましょう。
 - 排水の悪いほ場では、弾丸暗渠やプラウ耕を行い、雨水が地下に浸透しやすくしましょう。
- ③土づくり
 - 大豆栽培では根粒菌の活性が重要です。そのためにも、有機物の施用や土壌の酸度矯正に努めましょう。また、麦跡のわらは焼かず、鋤き込み地力促進に活用しましょう。
 - 大豆はリン酸・カリ・石灰の補給が重要で、窒素肥料を多量に施肥すると根粒菌の活性が低下するので注意しましょう。

◎施肥 (10a当たり)

区分	肥料名	施用量
土づくり	粒状炭酸苦土石灰	100kg
基肥	大豆専用化成610	30kg
追肥	硫安	10kg

・は種作業・除草作業

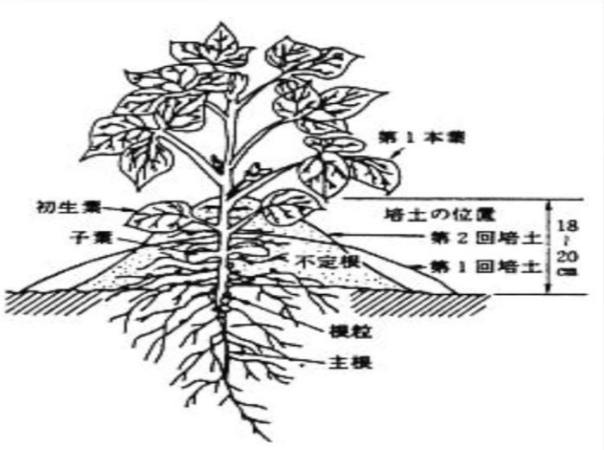
- ①は種時期・は種量

品種名	は種時期	は種量(目安)
オオツル	6月中旬~6月下旬	4~6kg / 10a
タマホマレ	6月中旬~6月下旬	
こゆたかA1号	6月中旬~7月上旬	
フクユタカ	7月上旬~7月中旬	
- ②種子消毒
 - 生育を安定させるために種子更新を行い品質向上・安定生産に心掛けましょう。
【自家採種を繰り返すと、品種特性が薄れたり、種子伝染病害が発生する可能性があります。】
 - 紫斑病対策として種子消毒を行いましょう。
 - 鳥害の恐れがある場合はキヒゲン剤を使用しましょう。
- ③除草剤
 - ・は種覆土後の除草
 - ◎粒剤…エコトップ細粒剤F・クリアターン細粒剤F・ラクサー粒剤は発芽した雑草に対しては効果が劣るので、雑草発生前に適期を逃がさず散布しましょう。土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、土壌に適度な水分がある時に使用しましょう。
 - ◎乳剤…トレファノサイド乳剤・エコトップ乳剤・ラクサー乳剤は、は種覆土後に、土壌表面に散布しましょう。効果をあげるために砕土はできるだけ細かくしましょう。

- ◎雑草生育期の除草
 - ◎ポルトフロアブル…イネ科雑草に大変効果が高い。(広葉雑草・カヤツリグサ科には効果が期待できない)
 - ◎大豆バサグラン液剤…広葉雑草に大変効果が高い。(イネ科雑草には効果が期待できない)
 - ◎パワーカイザー液剤…大豆出芽後でも全面散布が可能(イネ科雑草[2葉期まで]や広葉雑草まで幅広い雑草に効果があります)
 - ◎アタックショット乳剤…大豆生育期に使用でき広葉雑草に効果が高い(イヌホウズキやマルバルコウなどの難雑草に効果が期待できます。)

・中耕・培土 うね間かん水

- ①中耕・培土
 - 中耕・培土は本葉2葉展開期~4葉展開期に2回行いましょう。また、開花1週間前までには作業を終了しましょう。
- ②うね間かん水
 - 大豆の生育初期はきわめて湿害に弱いですが、開花期以降の水の要求量は高く、生育が旺盛となる開花後の40~50日間に大部分が吸収されます。
 - 葉が半分以上しおれて内側に巻くようになったら、かん水が必要です。
 - 開花期から子実肥大期にかけて降雨がなく、土が白く乾く状態が見受けられたときはかん水を実施しましょう。
 - 大きなほ場では3日程度に分けてかん水し、1度に多量のかん水はやめましょう。(うね間の水たまりは厳禁です)



- ③病害虫防除
 - 病虫害は品質・収量低下の大きな原因となります。開花期以降を重点的に防除を行いましょう。莖や葉・莢に薬剤が十分かかるように散布し、周辺作物に薬剤が飛散しないように注意しましょう。

・収穫・乾燥・調製

- ◎汚損粒発生や機械トラブルを防ぐため、事前に青立ち株や雑草は引き抜いておきましょう!!
- ◎大豆の成熟期は「葉が完全に落葉し、莢の大部分が褐変し、莢を振ればカラカラと音がする時期」です。早すぎると、汚損粒・しわ粒により品質が低下し、遅すぎると裂莢による損失増加や降雨により品質が低下しますので適期収穫に努めましょう。
- ◎子実水分17~18%以下で脱粒を行い、乾燥は水分13.5%以下に仕上げましょう。

排水対策 (輪作体系での排水対策)

大豆の種時期は、梅雨時期と重なることが多く排水対策を怠ると湿害による発芽不良につながります。

しっかりとした排水溝の設置でスタートダッシュをきめ、反収アップを目指しましょう!!

水稻→麦→大豆輪作体系での排水対策の考え方!!

水稻

- ・中干しのおかげで収穫作業がスムーズに行え、コンバインでは場が荒れない。
- ・水稻収穫直前まで入水ができ、粒張りの良い米ができ品質向上につながる。
- ・水稻の『中干し』をしっかりと行いほ場を固める。

麦

- ・湿害を受けにくく麦の生育が均一となり、収量・品質アップにつながる。
- ・ほ場が乾き麦の種・出芽率が上がるとともに、除草剤効果の向上も期待できる。
- ・ほ場が比較的乾いており排水溝設置もスムーズに行え大豆栽培でも活用ができる。

大豆

- ・大豆の反収アップにつながる。
- ・ほ場が乾いていることで、出芽率が上がり、苗立ちの確保が行える。
- ・ほ場が比較的乾いており、梅雨時期の種でも楽にできる。



土などが落ち改善が必要な排水溝

このような排水溝は、ほ場外に水が排出せず湿害を受けやすく収量・品質に影響します。このようなほ場を見かけたら、スコップで土を上げるなどし排水対策に努めましょう。

また、水稻や麦栽培の時から排水溝を意識した管理に努めましょう!!

しっかりと対策ができている排水溝



土づくりと施肥

★土づくり…大豆は良く肥えているほ場を好みます。土づくりに稲わらや麦わらをうまく活用しましょう。また、堆肥等の施用は根粒菌の着生や活性化を促し収量アップにつながります。

※大豆の最適土壌はpH6.0～6.5と言われています。必ず石灰資材を施用し土壌酸度の調整を行いましょう！！

(土づくり…粒状炭酸苦土石灰100kg/10a)

★基肥…大豆に吸収されるチツソは地力や根粒菌からの供給が多いことからチツソ施肥の効果は小さいですが、根粒菌の活動が始まるまでのチツソ肥料は初期生育を助けるのに重要です。また、リン酸・カリは根粒菌では供給されないのもしっかりと施用しましょう。

(基肥…大豆専用化成610 30～40kg/10a)

初期生育確保のポイント

- ①石灰資材は必ず施用し酸度矯正を!!
- ②排水対策もかねて土壌の下層は粗く、出芽のために表層は細かく!!
- ③チツソ肥料過多は、根粒菌の着生を妨げるので注意!!
- ④堆肥等有機物の施用で根粒菌を活発に!!

種子更新

大豆の種子は自家採種を続けると小粒傾向となるとともに、品種特性も薄れ、種子伝染性病害にもかかる可能性がありますので、種子更新をしっかりと行い安定生産につなげましょう。

種子消毒

薬剤	使用時期	使用回数	使用方法	適用病害虫
クルーザーMAXX	は種前	1回	乾燥種子1kg当たり 原液8mℓ塗沫処理	紫斑病・莖疫病・アブラムシ類・タネバエ・ネキリムシ・フタスジヒメハムシなど
ベンレートT水和剤20	は種前	1回	乾燥種子重量に 0.2～0.4%粉衣処理	紫斑病
キヒゲンR-2フロアブル	は種前	1回	乾燥種子1kg当たり 原液20mℓ塗沫処理	紫斑病・苗立枯病・タネバエ



クルーザーMAXX
低温・過湿条件下では作物の生理活性が低下し莖疫病などが心配されますが、クルーザーMAXXは大豆を守り苗立率が向上し生育も旺盛となります。

は種時期

大豆のは種は麦収穫直後からの作業となり、品種によっては適期が限られています。作付計画をしっかりと行い適期は種に心掛けましょう!!



小麦の収穫を考えた大豆は種適期

作物名	6月			7月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
小麦(ふくさやか)	収穫時期					
オオツル		は種適期				
タマホマレ		は種適期				
ことゆたかA1号		は種適期				
フクユタカ				は種適期		

※は種適期を過ぎると生育不足による反収低下をまねきます。麦収穫時期を考えた品種選定に心掛けましょう!!

①は種量(目安)・・・は種量は4～6kg/10a

②は種作業と苗立ちの確保

は種深は3～4cmを確保するとともに、

栽植本数は10,000～15,000本/10aを確保しましょう!!

(密植栽培は20,000～30,000本/10a確保しましょう!!)

注意!!

大豆を早播きすると栄養生長時期が長くなり過繁茂になり、反対に遅播きすると生育不良となり収量に影響が出ますので、極端な早播き・遅播きには気をつけましょう。
計画的に作業を行い品種に応じた播種適期を!!

★反収の良い生産者の特徴

- ①排水溝の徹底により水はけが良い!!(湿田部分が少ない)
- ②適期作業が実施されている!!(7月中旬頃にはは種が終わっている)
- ③丁寧な耕起(土塊が細かい)を実施し除草剤の効果を高めている!!
- ④中耕・培土が確実に実施されている!!
- ⑤病虫害防除の発生状況により適期防除が実施されている!!
- ⑥干ばつ時などは畝間かん水の実施を行い、莢数確保と青立ち予防に心掛けている!!

まずは出来る事から取り組み収量・品質UPを目指しましょう!

中耕・培土

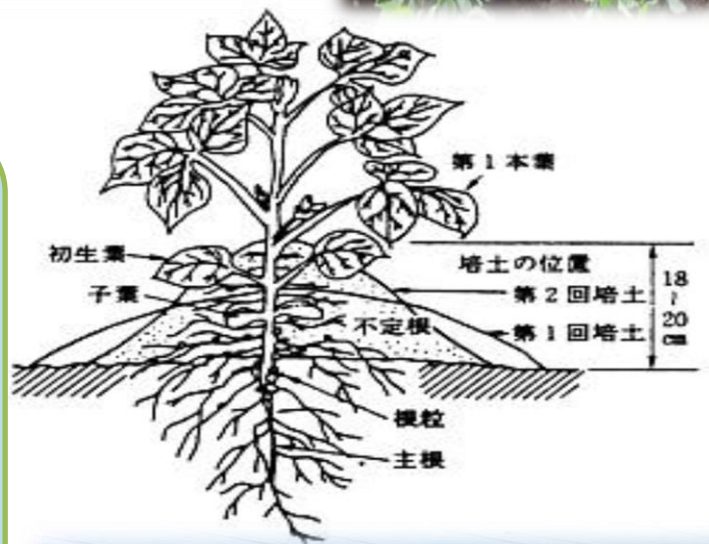
中耕・培土は安定多収生産を行う上で欠かすことのできない基本技術です。中耕は土壌の通気性を良くし、根粒菌の着生や根の活力を高めると同時に、雑草の発生を抑えます。

また、培土には新しい根の発生を促し、養分吸収を高め生産量の確保や倒伏防止効果も期待できますが、作業が遅れると根を傷めるため、開花初めまでに1～2回行いましょう!!

中耕・培土で品質向上・収量アップを!!

中耕・培土の効果とは？

- ①新根の発生を促し、後期の養分の吸収を高める!!
- ②土壌の通気性を良くし、根粒菌や根の活力を高める!!
- ③土壌の保水力が高まり、干ばつを防ぐ!!
- ④根域拡大と培土で倒伏防止につながる!!
- ⑤排水・かん水作業がスムーズに行える!!
- ⑥雑草の発生を抑えることができる!!



★中耕・培土の作業適期は？

作業の適期は、本葉2葉展開期～4葉展開期で1～2回行い、初生葉が隠れる程度が基本です。

★第1回目の目安

本葉2～3枚の頃に子葉が隠れる程度の位置まで実施。

★第2回目の目安

本葉4枚頃に初生葉が隠れる程度の位置まで実施。

また、作業時期が遅れると、逆に根を傷つけるため、作業は開花1週間前までには終わらしましょう!!



雑草防除

近年管内の大豆栽培において雑草対策に困っておられる方を見受けます。
雑草の発生は、大豆生育の阻害につながると共に、収穫時の雑草の汁による汚損粒など品質低下の原因にもなります。
除草剤の効果を最大限に発揮するように心掛けましょう!!

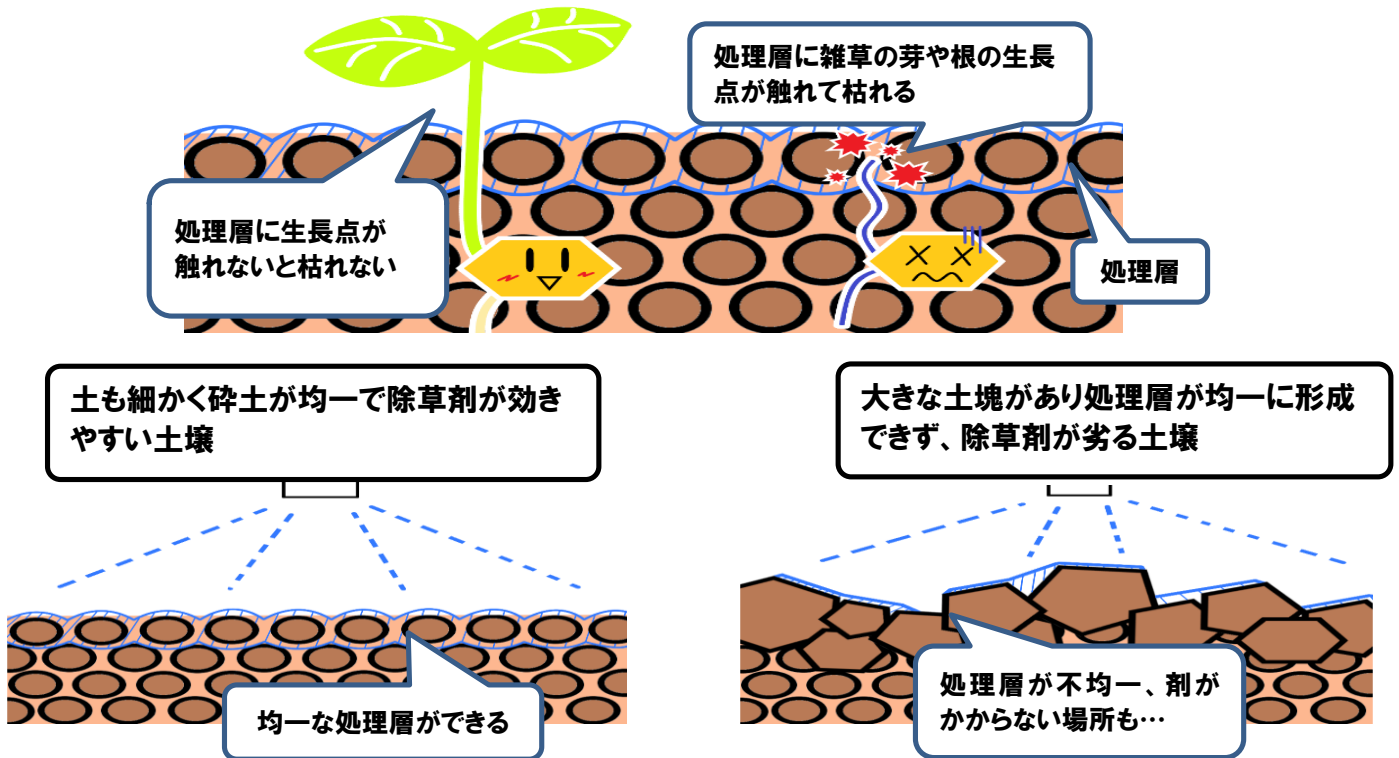
生育初期の雑草対策

除草剤(土壌処理剤)をうまく効かせ初期雑草を抑えましょう!!

そのためには、①碎土率 ②土壌水分 ③天候に注意し作業を行いましょう!!

①碎土率

※土壌処理剤ではしっかりと『処理層』ができないと除草剤の効果が発揮できません。



②土壌水分

土壌処理剤は土壌水分によって均一に散布され処理層を作るので、一定の水分が必要です。また、水分が多すぎると土壌処理剤が流れたり、浸透し結果的に処理層がうまく作れず雑草発生につながります。

③天候

薬剤を散布しても、直後に大雨が降ると薬剤が流れて効果が出ないことや、逆に好天が長く続くと土壌が乾き過ぎて処理層がうまく形成できずに効果が劣ります。
天気予報を確認し散布条件に適した条件での散布に心掛け薬剤の効果を高めましょう!!

病虫害防除

管内生産者の管理日誌を見ていると、病虫害防除を実施されていない方も見受けられます。病虫害による食害で収量や品質低下を招いている生産者も少なくありません！種子消毒がされていても、夏～秋は多くの病虫害が発生しますので、必ず本田防除を実施し品質向上に努めましょう！

JAでは無人ヘリコプターの請負防除を実施しています。面積などの要件はありますがお気軽にご相談下さい。また、無人ヘリ防除は大豆の葉の裏まで薬剤がかかることで病虫害に対する効果が高いとされています。

無人ヘリ防除風景



無人ヘリの散布費用（全農請負参考価格）(税込み価格)【R5.3月現在】

1,835円(散布オペレーター料)+10円(協会負担金)+散布薬剤費/10a

散布時間

1ha 約10分～15分程度(労力・作業時間の省力化が図れます)

干ばつ時のうね間かん水

大豆は生育初期の湿害には極めて弱い作物ですが、開花期から登熟期の要水量は多くなります。梅雨明け以降に降水量が少ない場合には水不足に注意しましょう。また、水不足により葉がしおれたりすると落花・落莢が多くなり着莢数が低下し減収を招きます。

うね間かん水の目安は？

開花期以降に晴天が1週間程度続けばうね間かん水が必要です
(葉がしおれ、葉が裏返った症状が圃場の50%程度見られる状況です!!)



注意点!!

ほ場内に長時間水が停滞すると湿害が生じるので、できるだけ大量の水を通し短時間でかん水するようにしましょう。(うね間の水たまりは厳禁です)

青立ち症状対策!!

青立ち症状発生の原因には、高温乾燥条件による土壌水分の低下と乾燥ストレスによる莢の減少や登熟期間の水分不足・害虫による子実肥大の阻害等が考えられます。

その対策

- ①害虫の発生状況に応じてカメムシ類やフタスジヒメハムシ等の害虫防除を徹底しましょう。
- ②は種前の排水対策を徹底し、開花期頃に降雨が少なく土が乾燥している場合には、うね間かん水を実施し湿潤状態に保ち水不足を防ぎましょう。ただし、開花期を乾燥状態で管理した後うね間かん水すると青立ち症状を助長する場合がありますので、できる限り開花期頃から土を湿潤状態に保ちましょう。

除草剤

適期・適量の除草剤の散布

雑草や病害虫防除は時期を逃さず適期に行いましょう！！

◎除草剤散布

は種・覆土後、土が乾くまでに薬剤を散布しましょう。また、散布前には必ず容器の記載事項を確認しましょう。

★土壌処理剤

薬剤名	散布量	使用時期	10a当り 使用回数
クリアターン細粒剤F 	4～5kg	は種直後(雑草発生前)	1回
エコトップP細粒剤F 	4～6kg	は種後出芽前(雑草発生前)	1回
エコトップP乳剤 	400～600mℓ (散布液量100ℓ)		1回
トレファノサイド乳剤 	200～300mℓ (散布液量100ℓ)	は種後発芽前	1回
ラクサー乳剤 	400～800mℓ (散布液量100ℓ)	は種後発芽前(雑草発生前)	1回
ラクサー粒剤 	4～8kg		

※中耕・培土後に雑草が多発した場合には下記の除草剤を活用しましょう。

薬剤名	散布量	使用時期	使用回数	備考
パワーガイザー液剤  NEW	200～300mℓ (散布液量100ℓ)	出芽直前～3葉期まで (雑草発生前～2葉期)	1回	使用期間の幅が広い 帰化アサガオにも効果的
ポルトフロアブル 	200～300mℓ (散布液量100ℓ)	雑草生育期 (イネ科雑草3～10葉期) 収穫30日前まで	1回	イネ科雑草が多いほ場
大豆バサグラン液剤 	100～150mℓ (散布液量100ℓ)	大豆2葉期～開花期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	1回	広葉雑草が多いほ場
アタックショット乳剤 	30～50mℓ (散布液量100ℓ)	大豆2葉期～開花期 (雑草の生育期) 但し、収穫45日前まで	1回	広葉雑草が多いほ場

※ポルトフロアブル使用時には周辺のイネ(水稲)への飛散に注意してください。

(また、広葉雑草には効果がありません)

※アタックショット乳剤は、薬剤がかかった大豆に一時的な薬害症状(褐変・縮葉・白化等)が現れる場合がありますが、新しく展開する葉へは影響がなく次第に目立たなくなります。

(なお、アタックショット乳剤の使用にあたっては使用確認書の提出が必要となります。)

収 穫

収穫の目安は？

葉が完全に落葉し、莢の大部分が褐変し(莢の色が茶色に変わる)
莢を振ればカラカラと音がする頃が収穫時期です!!

汚損粒や機械のトラブル防止のために、事前に雑草や青立株を除去しましょう!
また、刈取り時に土の侵入による汚粒での品質低下がみられます。刈取り部分の調整をしっかりと行い10mほど試し刈りをして汚損粒がないか確認します。また、土が混入した時は機械を確認するなど汚粒の防止に心掛けましょう!!

刈取り水分は17~18%以下を目安に!!

成熟期後に子実が乾燥と吸水を繰り返すと大豆のしわの原因につながります。



被害粒



皮切れ粒

皮切れ粒は・・・

皮切れ粒は、乾燥時の送風温度あるいは湿度が大きく関係して起こります。送風湿度が40%を下回ると発生割合が高くなりますので、送風湿度が低くなりやすい晴天の日中は常温通風乾燥を心掛けましょう。また、火力乾燥を行う場合も常温+5℃以下の送風で乾燥を行う事で被害粒を減少できます。



しわ粒(ちりめんじわ)

しわ粒は・・・

しわ粒は等級低下の大きな原因につながります。また、しわ粒はへその反対側の種皮と子実がギザギザになる『ちりめんじわ』と、種皮が亀甲状になる『亀甲(かぶと)じわ』に大きく分けられます。

ちりめんじわ予防・・・

ちりめんじわ粒は、生育後期に子実がうまく肥大しない時に起こります。登熟後半の栄養状態をよくすると共に、排水対策をしっかりと行い土壌環境を良くすることで予防につながります。



しわ粒(亀甲じわ)

亀甲じわ予防・・・

亀甲じわ粒は、成熟期後の子実が吸湿と乾燥を繰り返すことで主に起こると言われています。
圃場内での刈り遅れが起こらないように、適正水分の17~18%以下になれば速やかに収穫を実施することで予防につながります。



汚損粒

(土による汚損)(雑草による汚損)

汚損粒は、土の噛込みやほ場内の雑草の噛込みが主な発生原因として考えられます。土の噛込みを防ぐためには、収穫作業中に土が入ったら、速やかにコンバイン作業を停止しほうき等でコンバイン内の土を取り除きましょう。
また、朝方や夕方の収穫は露によりコンバイン内のゴミが付着しやすく、そのゴミが大豆に付着し汚損粒につながります。収穫作業は朝露が完全に乾く午前10時頃から日没までの日中に行い汚損粒予防に心掛けましょう。




大豆病害虫防除剤

目標収量 300kg/10a

適期の病害虫防除の実施

◎病害虫防除（使用基準をしっかりと遵守し、周辺作物に注意し散布しましょう）

10a当り

		薬剤名	散布量	対象病害虫	使用時期	使用回数
液剤防除	1回目	スミチオン乳剤 	100～300ℓ (希釈倍率1000倍)	アブラムシ類・カメムシ類・マメシクイガ ・シロイチモンジマダラメイガ ・ダイズサヤタマハエ ・マメヒメサヤムシガ	収穫 21日前まで	4回以内
	2回目	トップジンM水和剤 	100～300ℓ (希釈倍率1000倍)	紫斑病・菌核病	収穫 14日前まで	4回以内
	3回目	トレボン乳剤 	100～300ℓ (希釈倍率1000倍)	アブラムシ類・カメムシ類・ハスモンヨトウ フタスジヒメハムシ・フキノメイガ ・マメシクイガ・シロイチモンジマダラメイガ ・ダイズサヤタマハエ	収穫 14日前まで	2回以内

		薬剤名	原液	散布量	対象病害虫	使用時期	使用回数	
無人ヘリ・ドローン散布対応剤	選択	1回目		160mℓ /10a	0.8ℓ (希釈倍率5倍) 水 640mℓ 薬剤160mℓ	紫斑病	収穫 14日前まで	4回以内
		薬剤混合する場合						
	1つの薬剤での場合	1回目		100mℓ /10a	0.8ℓ (希釈倍率8倍) 水 700mℓ 薬剤 100mℓ	紫斑病・カメムシ類・ マメシクイガ	収穫 21日前まで	2回以内
		NEW						

大豆栽培チェックシート

チェックシートを活用し反収アップにつなげましょう！！

実施したこと実施できなかったことを記入し、次年度への栽培の参考につなげましょう！！

作業区分	チェック項目	実施の○×	次年度への注意点
播種準備	土壌改良資材(粒状炭酸苦土石灰)は散布しましたか？	○ ×	
	麦わらや有機物等のすき込み施用はしましたか？	○ ×	
	土は細かく丁寧にトラクターで作業しましたか？	○ ×	
	排水溝はしっかりと設置し、排水溝に土は落ちていませんか？ また、水尻としっかりつながっていますか？	○ ×	
播種作業	種子消毒剤を使用し病害虫予防に努めましたか？	○ ×	
	は種作業は適期に行えましたか？ (7月中旬頃までに…)	○ ×	
雑草防除	砕土は細かくし、除草剤はしっかりと適期に散布しましたか？	○ ×	
管理作業	発芽はしっかりとしていますか？ (苗立は確保できていますか？)	○ ×	
	中耕・培土は行いましたか？	○ ×	
	開花期追肥は実施しましたか？	○ ×	
	ほ場条件によりかん水作業はしましたか？ (開花期以降晴天が1週間続いた場合)	○ ×	
防除作業	本田病害虫防除は実施しましたか？	○ ×	
	防除回数	回	
	薬剤名() 薬剤名() 薬剤名() 薬剤名()		
収穫作業	収穫前に雑草や青立株を除去しましたか？	○ ×	
	収穫作業は適期に実施できましたか？	○ ×	
結果	反収・等級は昨年より良かったですか？	○ ×	本年度 大豆面積 _____ ha 収穫量 _____ kg 反収 _____ kg

お問い合わせ・ご相談は！

本 店

営農振興課・TAC TEL 28-7851

販売推進課・施設課 TEL 28-7852

経済課 TEL 28-7862

愛荘営農経済センター管内

愛荘営農経済センター TEL 42-2071

秦荘支店 TEL 37-2301

(経済担当携帯) TEL 090-5018-7083

愛知川支店 TEL 42-2355

(経済担当携帯) TEL 090-1078-6804

彦根営農経済センター管内

彦根営農経済センター TEL 28-9838

彦根中央支店 TEL 26-9100

彦根南支店 TEL 28-9800

(彦根中央・南経済担当携帯) TEL 090-9093-2741

彦根東支店 TEL 24-9600

鳥居本支店 TEL 22-5687

彦根北支店 TEL 27-9700

(彦根東・北・鳥居本経済担当携帯) TEL 090-6988-6923

稲枝営農経済センター管内

稲枝営農経済センター TEL 43-3720

(経済担当携帯) TEL 090-8825-5402

稲枝支店 TEL 43-3221

東部営農経済センター管内

東部営農経済センター TEL 35-2552

多賀支店 TEL 48-1007

大滝支店 TEL 49-0334

(経済担当携帯) TEL 090-5018-8102

甲良支店 TEL 38-2811

(経済担当携帯) TEL 070-4445-5205

河瀬亀山支店 TEL 28-1235

(経済担当携帯) TEL 090-6988-7197

豊郷支店 TEL 35-2551

(経済担当携帯) TEL 080-2503-3174

稲枝・愛知川管内

ふれあい支店 TEL 43-8000

(経済担当携帯) TEL 090-1078-6804